

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610410502		
法人名	医療法人 鴻伸会		
事業所名	グループホーム合歓の木		
所在地	徳島県阿南市新野町西馬場3-3		
自己評価作成日	平成29年12月	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム合歓の木はグループホームスローガンでもある「笑顔満開」を目標とし、職員も利用者も笑えるよう日々努力している。職員の笑顔により、安心した第二の家庭環境を利用者様、ご家族様に提供できる事を目標としている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年1月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は歴史ある商店街の中に位置している。周辺は、小学校や神社等の公共施設がある。山や田畑に囲まれた、落ち着いた過ごすことのできる環境が広がっている。代表者や管理者は利用者や家族、職員が笑顔一杯になる事業所を目指しており、職員を育成しつつ、「尊厳のケア」「納得のケア」に努めている。地域の住民や小学校の子どもたちとも日常的に交流し、地域の事業所としての役割を担っている。同一法人の運営する併設の協力医療機関と連携し、利用者や家族の意向に沿った医療支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歡の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中の特に「尊厳のケア」からGHの理念を作り日々のケアに取り組んでいる。	事業所では「笑顔 満開」を理念として掲げ、ミーティングやカンファレンスの際に話し合っ共有し、日々のケアに活かしている。職員は、利用者一人ひとりが、笑顔で納得した生活をおくることができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の踊りや音楽のボランティア、祭りの神輿、浦安の舞、小学生の訪問がある。移動図書館に行って本を選んでいる。	事業所は、地域の行事や祭に参加している。地域の小学校の卒業式にお祝いに行くこともある。事業所には、地域のボランティアや小学生の来訪がある。管理者は、地域の介護研修の講師を務めており、地域の中の事業所として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	経験や研修を通し、認知症ケアの啓発や、家族面会時や家族会などの行事時に周知したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事予定や実践報告などを行い、改善にむけご意見をもらう。意見を職員間で話し合い新しい取り組みをしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議に多くの方の出席を得るために、家族会等の行事に合わせて開催することもある。会議では、利用者の状況や行事、事業所運営等について報告している。委員には家族会への出席を依頼し、提案や意見を出してもらい、事業所運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。包括支援センター主催の勉強会に参加し情報交換している。	職員は、市の担当窓口や地域包括支援センターを訪問している。また、会議や研修会を通じて相互に情報交換を行っている。意見を述べたり、相談したりできる関係づくりを心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室の鍵は施錠していない。例外的身体拘束3原則についてもカンファレンスで勉強している。	事業所では、カンファレンス等の機会を活用し、身体拘束の弊害について職員間で共有するようになっている。全職員で拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの心身状況に配慮しつつ、本人の思いを大切に、活動の自由を制限しない支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について申し送り時に話し合っている。特に言葉遣いも気を付けるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歡の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスなどで勉強し利用者家族を支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文書により説明をし、口頭でも必ず説明を付け加える。改定などがあれば面会時、家族会で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に2回の家族会のアンケートで要望を聞きサービス改善につなげ、ケアに生かすようにしている。運営推進会議で報告。	事業所では、家族会を開催している。その際にアンケートを実施しているほか、家族の来訪時や電話等で利用者や家族の意見・要望を聞いている。アンケート結果は、職員間で話し合い、結果や解決策などを本人にも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスで担当者だけでなく職員で意見をだし運営に反映させている。	代表者や管理者は、月1回のカンファレンスの際に、職員の意見を聞くようにしている。管理者は、職員の強みを活かすように意識しており、日頃からコミュニケーションを通して職員の意向を把握するよう努めている。出された意見は、職員間で話し合い、運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業をできるだけしないよう声掛けしている。 職員同士、他部署、他職種との話す機会を多くしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に出る人員の余裕が持たなくなっている。マニュアルを再検討して基本を見直している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会がもてない。ケアマネネットワーク会議で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までに本人、家族に何度か会い、希望を聞いてスムーズな利用を目指している。利用初めのうちは特に声掛けをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主介護者だけでなく他の家族からも話を聞き信頼関係を築くよう努めている。面会の機会を多くするようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設医療機関との連携を図っている。家族からの相談内容に添ったケアプランを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることをみつけ少しの援助でできる役目を徐々に増やしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り面会、外出をお願いしている。利用者が家族に対して希望する物品はその都度連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで利用者の町や自宅の近くに出かけ話題にしている。友人の訪問も歓迎している。	事業所では、利用者が馴染みの場所へ出かけることができるよう支援している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所を利用している馴染みの方との交流も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で食卓を囲んだり作品作りなど協力し合えるよう努力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には状態を聞き面会に行く。家族にも話を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の意思決定に添ったケアや援助に努めている。本人が遠慮していることもあり、家族にも聞いている。	日頃から職員は、利用者との関わりのなかで、一人ひとりの生活歴や思い、意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、表情や些細な仕草の変化から意向を把握するよう努めたり、家族から情報を得たりしている。職員は、本人にとって最良の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話をきいたり家族の面会時に聞いてセンター方式に記載。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、食事量、水分量、排泄のチェックをしている。状態が変わったら援助記録に記載、特変は家族に伝える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のケースカンファレンスで確認。担当を決めて見守りをケアに生かすようにしている。計画見直し時期に関係なく状態により計画を変更している。	事業所では、利用者や家族の要望を取り入れ、職員間で意見を出し合いつつ、その人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。利用者の楽しみや、やりがい、心身機能の維持に配慮した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り申し送りは全員が確認する。ケアプランに生かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設機関からの身体機能改善を図っているためPTや柔道整復師の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の来所や地域お祭りに参加している。 神社に散歩に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の在宅療養支援診療所と連携して、心身の状態把握をしている。専門医の受診も情報提供を受けて行っている。	入居時の段階で、本人と家族にかかりつけ医などの確認を行っている。同一法人の運営する併設の医療機関と連携し、適切な医療を受けることができるよう支援している。歯科の往診もある。専門医の受診については、家族と相談したうえで動向などの支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHIに看護師はいない。 併設医療機関の看護師と話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の富士医院と連携し病診連携室の職員と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明に加え重度化した場合や終末期のあり方について早い段階で家族と話し合う。 家族と主治医の話し合いの場を設けている。	入居時の段階で重度化や終末期の対応について、本人や家族に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族や主治医と話し合い、対応方針の共有化を図っている。また、協力医療機関と連携体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット事例によりカンファレンス時に対応の確認をしている。 マニュアルを目につきやすいところに置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で依頼している。 もしも、、、の時のシミュレーションを心がけるようにしている。	事業所では、災害時の緊急連絡網を作成し、通報訓練等を実施している。また、災害時に備えて、地域住民への協力依頼を行っており、連携体制の構築に努めている。しかし、事業所独自の実践的な避難訓練を行うまでには至っていない。	今後は、事業所独自の実践的な避難訓練の実施や地域との協力体制の確立、備蓄内容の検討を行い、地域住民の参加を得るなどして災害対策に取り組まれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけに対して個人の特徴に合わせるようにしている。カンファレンスで取り上げている。 トイレ介助は尊厳にかかわる事と考え声掛けに特に注意している。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳の確保に留意している。言葉づかいや呼び方、声のかけ方には、特に注意するなど、自尊心を傷つけないケアを心がけている。難聴の方にはそばに寄り添って会話するなど、利用者に配慮した支援に努めている。トイレや入浴時には、プライバシーに配慮した支援にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の意思表示を見逃さないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り(体調の許す限り)規則正しい生活に合わせてもらうが、本人のペースで自由に過ごしてもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪に毛のカットや毛染めを支援。 毎日の洋服についても本人の好むものを選ぶ。 化粧品も希望者には購入援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の準備、片付けなどできる範囲で一緒にしている。職員も見守りながら和やかに食事を楽しむようにしている。職員も一緒に食卓を囲んで食事をしている。	利用者と職員で食卓を囲み、会話を楽しくつつ食事をとっている。季節感に配慮した献立となっている。利用者には、一人ひとりの心身状況に応じて、できることで食事の準備などの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は食事以外のお茶などで確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けしてひとり一人口腔ケアの援助している。義歯は本人希望に合わせ消毒で預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせて排泄パターン表で確認。早めのトイレへの声掛けをしている。できるだけ布パンツ使用を心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。日中は、利用者の近くでさりげない声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。立位の困難な方もいるため、支援の際には、転倒に注意を払うとともに、利用者の状態に合わせて、パットを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物や乳製品など食事の工夫をしている。散歩や体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて入浴日や部分浴への変更を随時行っている。車椅子利用者も個別で支援しシャワー浴になることもある。	事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じた入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声かけを工夫するなどして、少なくとも週2回は入浴できるようにし、清潔の保持に努めている。無理強いないこと、入浴を楽しむことができるよう配慮している。冬季には乾燥や室温にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応によりその日のリズムに気づき、安心の休息になるよう援助に努めている。自宅での習慣にも配慮するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方薬についてカンファレンスで勉強している。処方薬の変更は申し送りノート確認し状態変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好む仕事を見つけ援助している。趣味が活かせるよう作品展をしたり句集をつづったりしている。おやつ作りや保存食作りをしよう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を設けている。ドライブを含め車の中から楽しんでもらうこともある。天候により散歩も出かけている。	読書の好きな利用者は、移動図書館を利用したり、一人ひとりの行きたいところへ出かけたりすることができるようにしている。家族の協力を得たうえで、冠婚葬祭にも出席することができるようにしている。また、季節の花見や景色の良い場所への外出も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム合歓の木 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたときは本人の状態に合わせてお金を使ってもらい支払いをしてもらう。フリーマーケットでのお買い物を楽しんでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に合わせて電話の利用をしてもらう。 家族からの絵手紙をファイルしたり飾ったりしている。郵便物の差出の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵や手作り作品を掲示している。季節の草花を飾ったり絵を掛け替えたりしている。一日一回の換気や雨季の除湿に気を付けている。	共有空間は、日当たりがよく、窓からは隣の小学校の様子を見ることができる。壁面などには、季節の草花や行事の写真、利用者の作品などを飾っており、家庭的な雰囲気がある。職員は、掃除や換気を計画的に行い、清潔感のある空間の保持に努めている。共有空間は、利用者や職員の集う憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを置き横になったり気のあった人と食卓で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きなものを飾ったり、家族から送られた写真や絵手紙をいつも見えるようにしている。	事業所では、利用者が自宅で使用していた家具や写真、手づくりの作品等を居室に持ち込んで飾っている。また、移動の邪魔になることのないよう、家具等の配置にも配慮している。利用者一人ひとりが居心地良く、安全に暮らすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの種類は医療用、木製、畳など本人の動きやすい物にしている。		